

2020年12月23日(水)

テレメンタリー2020「介護崩壊～救えなかったクラスター～」

2020年11月度ギャラクシー賞テレビ部門月間賞を受賞

HTB北海道テレビが制作、2020年11月8日(日)に放送したテレメンタリー2020「介護崩壊～救えなかったクラスター～」が2020年11月度ギャラクシー賞*テレビ部門月間賞を受賞しました。同番組は、17人もの入居者が亡くなり国内最大級の新型コロナウイルス感染症のクラスター(感染者集団)となった札幌市の老人介護保険施設について、札幌市の見解と施設の報告書、独自取材を基に検証し、「介護崩壊」を起こさないための教訓を探ったドキュメンタリーです。

講評では「コロナ禍を扱う番組だが、介護老人保健施設という施設が抱える問題点とそこから派生した行政の縦割り意識からくる硬直の構造を浮き彫りにしつつ、さらに現場の医療・介護関係者たちが共同作業で問題を解決し、同様の施設での再発防止にまで挑んでいくところを描いた構成がすばらしい」と高い評価を受けました。

受賞について、制作にあたった阿久津友紀プロデューサーは、「できるだけ早いタイミングで事例を検証することで、新型コロナウイルス感染症の拡大に多くの人が備えることができるのではないかと考え制作した。恐れられていた冬季の感染症拡大の第3波が現実のものとなる中、コロナ禍で見えてきた介護制度の問題点や課題をこれからも取材していきたい」とコメントしています。

HTBでは、7月11日(土)に放送したテレメンタリー2020「たたかう“生命の守り人”」と共に「テレメンタリー傑作選 コロナ禍の北海道 医療従事者の苦悩と介護崩壊の切迫した現場」として再編集し、12月26日(土)25:35-26:35に放送します。

*ギャラクシー賞は放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために1963年に創設した日本を代表する番組コンクール。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門からなり、放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する志賀信夫賞、視聴者の参加により選ばれるマイベストTV賞が設けられている。同賞テレビ部門は毎月放送批評懇談会が自主的に番組を推奨する月間賞を選定していて、各社からの応募作品を併せて審査し、2021年6月初旬開催予定の贈賞式で大賞をはじめとする各賞が決定、表彰される。

このリリースに関するお問い合わせ

HTB 編成局編成部 山崎

011-205-7666

メール: yuyamazaki@htb.co.jp